第１４回福山駅前デザイン会議を開催

日時 ： 2022年（令和4年）8月30日（火）15時00分～17時00分
場所 ： 福山市役所　６０会議室

デザイン会議では，福山駅前のエリア価値を戦略的に高めるための公共空間の形成や民間投資を生む官民連携によるまちづくりについて検討を行っています。今回のデザイン会議では，「福山駅前広場整備の基本方針について」と「官民連携による良質な民間投資・公共空間の活用に向けて」の２つの議題で，構成員のみなさまと議論を行いました。

福山駅前広場整備の基本方針について

- 絶対にあきらめない気持ちを持って進めていくことが大事。これまでの公共空間の整備は，何かと妥協する点が多くあったと思う。既存のストックをうまく活用して，交通結節点としても，広場としてもよいものを作る必要がある。今の空間を作り変えるだけでなく，様々な機能を取り込んだ新しい未来型の駅前広場をつくるとよい。
- 駅の近くに広場があるのは価値である。福山城４００年博オープニングイベント時には，北口スクエアにも多くの人が訪れ，楽しんでいた。駅の南側にも広場の必要性を感じた。
- 世界的な動きとして，「車に優しいまち」から「人に優しいまち」へ変化している。今を見るのでなく，１００年先を見た計画にするとよい。
- 人が多く集まる広場に共通することは，目的がなく，一人で過ごしている人が多い。コロナ禍であっても，外で風を感じたい，人と人の活動を確認しながら一人でいたい，何もしないことが心地よいなど，広場で過ごしたい人の視点で考えるとよい。
- 駅前広場の育て方を考えることが運営管理であり，今後非常に重要となってくる。どのように育てていくか中長期計画を議論するとよい。
- 駅前広場の大規模な変化は，民間事業者の気持ちも変化させる。
- 現在の駅前広場は，人が東西に渡りにくい状況であり，東西を広く使う案は良いと思う。さんすての南側を有効活用することで，人のための広場として使用することができる。
- 三之丸町地区優良建築物等整備事業は，駅前広場と融合させることで１～２階によい風景が出来てくる。今までにない新しいライフスタイルの提案が必要。
- 周辺の建物との連携について，早めに検討するとよい。まちの価値は路面階の価値であり，特に路面階のコンテンツについては，早めの検討が必要。

（次頁に続く）

福山駅前広場整備の基本方針について（続き）

- 官民の境目が誰が見ても分からないようにデザインすることが大事。見えざる塀があると，不思議なことに誰もその先には行かなくなる。
- 基本計画を策定する段階で，一緒に整備をする運営者を決めるとよい。その方が運営者も動きやすく，活用しやすい駅前広場になる。

官民連携による良質な民間投資・公共空間の活用に向けて

- ウォーカブルエリアの全体は約９３ha。土地の所有は公共（城，市役所，道路，公園，市や県の施設等）が半分，民間が半分である。
- エリア価値創造フォーラムは公共と民間の両者に呼びかけることが特徴。土地所有者が個別に動いていたら良いまちにはならない。まとまりを見せることで，エリア価値が高まっていく。
- ウォーカブルエリア内のすべての事業が，こだわりを持って取り組むことが大事。
- 一定のエリア単位で住民の人と将来像を共有することが重要。そうしたことを踏まえた開発が起こることで，エリア価値の向上につながる。
- 公共空間の整備は投資である。それに誘引されるように良質な民間投資が起こる循環をどのようにつくるかが重要。
- 投資によって価値が下がることもある。公共空間の運営を通じて，沿道の事業者や不動産オーナー等の民間を含めたマネジメントが出来るとよい。
- 民間には，質の高い投資を期待している。１００年先も素晴らしいまちであり続けるためには，官民が協力してまちをつくる思想が大事。
- 地方都市は閉店するとすぐに駐車場になる傾向がある。駐車場が増えすぎるとエリア価値が下がり，駐車場経営も困難となることが想定される。
- エリア全体で駐車場を経営する仕組みづくりができるとよい。
- 駅を降りた瞬間に福山らしさを感じられる場所をどうつくるかを考えるとよい。
- 福山城４００年博オープニングイベントでは，多くの人が福山駅に訪れた。今後も多くの人が訪れることが想定され，この人達にどのように駅周辺を周遊してもらうかを考えることが必要。
- 民間投資を呼び込むためには，多くの人に興味を持ってもらうことが必要であり，良質な情報発信が必要。
- 福山駅周辺全体を象徴するネーミングを決めて情報発信していくとよい。